

第一章 内科プログラム

1. 内科の研修目標

- 1) 内科一般の幅広い医学知識の習得に努める。
- 2) 問診による病歴、診察による身体所見（現症）の聴取・記載ができる。
- 3) Problem list を作成し、問題解決のための血液・画像検査等を立案する。
- 4) 得られた患者医療情報から、鑑別診断・治療方針の確立を進める。
- 5) 基本的な検査手技を学び、安全かつ正確に実施する。
- 6) 他科医師、Co-medical と正確かつ綿密な連携・協力関係を構築できる。
- 7) 患者に治療方針の選択肢を提示し、ICにしたがって、正確かつ適正に実施する。
- 8) 上級医の指導のもと、内科地方会や各種症例検討会・学会で症例発表を行う。

以上の各項目を、研修医自身が積極的にプロGRESSする能力を高める。

この他、研修医の要望があれば、その意思を生かようプログラムに取り入れる方針。

3. 主な研修疾患

1) 膠原病関連疾患

古典的膠原病（関節リウマチ、SLE、強皮症、筋炎、血管炎、シェーグレン症候群）はもとより、リウマチ様多発筋痛症、成人発症スチル病、サルコイドーシス、ベーチェット病など膠原病関連疾患を幅広く診療します。膠原病は、全身性疾患であり、血液、中枢・末梢神経、呼吸器・肺、消化管、腎、皮膚等、全身諸臓器に病変がおよぶ疾患であり、不明熱の精査目的に受診される患者も多く、診断には、血液疾患や各種感染症、悪性腫瘍との鑑別診断が重要です。ステロイド剤、免疫抑制剤が主たる治療法であることから、糖尿病や日和見感染症などの薬剤性の有害事象が高頻度に併発してくることとなり、広く内科一般の医学知識と治療戦略の応用が要求されます。

2) 腎疾患

糸球体腎炎、間質性腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎不全、慢性腎不全が

主な対象疾患で、腎生検を含めた各種検査から、薬物治療、血液透析の導入から維持までの診療を行います。

3) 糖尿病・代謝疾患

診断、食事・運動を含めた患者教育、薬物治療、インスリン治療のみでなく、各種合併症に対する診療を行います。

4) 内分泌疾患

甲状腺、下垂体、副腎など多くの内分泌疾患が対象疾患であり、各種ホルモンの測定、画像診断、負荷試験などから診断を確定し、適切な治療方針を確立する診療を行います。

5) 各種感染症

内科では、急性肺炎、敗血症をはじめとする各種細菌感染症のみならず、伝染性単核球症を含むウイルス感染症、真菌感染症の診断と治療に関する診療を行います。近年、増加している高齢者の誤飲性肺炎に対しては、診断・治療のみならず、嚥下評価を行い、経口摂食が困難な患者に対しては、経管栄養、ポートを介しての在宅 IVH など栄養経路を選択し、退院あるいは転院までのマネージメントも行います。

6) 血液疾患

血球の減少・増加を呈する、各種貧血、血小板減少性紫斑病、急性・慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群などが対応疾患です。骨髄移植などの最先端の治療を要する疾患は関連病院へ紹介しますが、その適応のない患者に対しての診療を行います。